

第3回 酒田市総合計画審議会 議事要旨

1. 日時

平成29年5月17日（水）13:00～14:45

2. 場所

酒田市役所 第一・第二委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 計18名（敬称略）】

酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴 勝
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤 善一
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	兵藤 清彦
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤 吉男
平田地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	阿部 時男
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克
酒田市袖浦農業協同組合代表理事組合長	五十嵐 良弥
北庄内森林組合代表理事組合長	高橋 治雄
山形県漁業協同組合参事	西村 盛
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳
一般社団法人酒田地区医師会十全堂会長	栗谷 義樹
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善
酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治
酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤 初子
酒田飽海PTA連合会母親委員会会長	佐野 亜古
特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐 晃子
東北公益文科大学学長	吉村 昇

【事務局（酒田市）】

市長、企画振興部長、政策推進課長、総務部長、市政推進調整監兼危機管理監、消防調整監、市民部長、健康福祉部長、農林水産部長、水産林政調整監、商工観光部長、上下水道部長、上水道技監、教育部長、土木課長、建築課長

4. 議事要旨

【市長あいさつ】

- 新しく審議会委員になられた皆様も、昨年度からの皆様も、今年度内の総合計画議決に向け、よろしくお願ひしたい。
- 総合計画は市の最上位計画に位置づけられている、まちづくりの基本となる指針。
- 計画策定の基本的な考え方は次の5つ。
 - ①市民参画による計画づくり
審議会そのものも市民の代表により構成されるが、たたき台をつくる段階から市民に関わってもらうことを徹底したい。自分事としてまちづくりを考えて頂くため、中学生から70代の方までが一堂に会して、酒田市の未来について語り合う総合計画未来会議を昨年度より開催している。
 - ②わかりやすい計画づくり
より市民の皆様浸透するよう、ページの構成含め、できる限り見やすく、わかりやすい計画としたい。
 - ③市民と行政の協働
人口が減少していく中で、市の財政状況は今後ますます厳しくなっていく。行政のマンパワーも縮小していく。将来、存続していくためには、市民のみなさんと一緒に考えていくための環境を整える必要がある。その風土を作っていきたい。市民ニーズも多様化・専門化しており、市民、企業、組織等あらゆる組織が協働して課題を解決していかなければならない。行政のやることだけを書くのではなく、市民の皆さんの役割についても盛り込んでいきたい。
 - ④東北公益文科大学と連携した計画
東北公益文科大学と連携したまちづくりを進めるための計画でもある。
 - ⑤個別計画の指針となる計画
最初に申し上げたとおり、総合計画は酒田市の最上位計画なので、さまざまな個別計画の指針となる計画にしていく。
- 昨年度、委員の皆様にはインタビュー形式で意見を伺ったところだが、今年度は計画の中身について、議論をお願ひしたい。

【総合計画審議会会長あいさつ】

- 〈委員〉丸山市政発足から2年弱が経とうとしている。先日、酒田市が北前船寄港地として日本遺産に登録された。また、昨年度には、鳥海山・飛島ジオパークが日本ジオパークに認定された。さらにはポート・オブ・ザ・イヤー2016の認定、外航クルーズ船の来航決定など、市政の動きが見え始めてきた。今後10年間、移住・定住、観光、産業振興、農業、水産業等、しっかりした基本計画を策定し、それに基づいた市政を進めて頂きたいと思う。本日はそれぞれ専門をお持ちの皆様からお集まり頂いている。遠慮なく様々な意見をお願ひしたい。

(1) 現計画の目標数値にかかる実績について【資料1】

～事務局より資料に沿って説明～

- 〈事務局〉現計画の目標数値については、42項目を掲げており、政策目標達成のためには、すべて重要な数値と捉えているが、総合計画の政策を評価するうえで、現在の目標数値が必ずしも評価に結びついていないという課題意識を持っている。新計画においては、適切な成果指標のあり方について、現計画のものを見直ししながら検討していきたい。
- 〈委員〉要介護認定率を指標としているが、どういう考え方で設定したか。
⇒〈健康福祉部長〉元気な高齢者の割合、介護予防の効果を計るために設定したもの。平成29年度の目標数値を下回っていることから「達成」としている。
⇒〈委員〉要支援も入れての数値か。
⇒〈健康福祉部長〉然り。

(2) 計画の骨子(案)について【資料2・3・4】

～事務局より資料に沿って説明～

(3) 都市の将来像(案)について【資料5】

～都市の将来像(ビジョン)検討部会長阿部 直善委員より資料に沿って報告後、事務局より都市の将来像(案)について説明～

- 〈委員〉そもそもこの審議会の中に女性の方が少ないと思う。女性がもっと参画した方がよい。出産できるのは女性だけであり、女性の力を引き出す政策をもっと打ち出すべきと考えている。酒田の未来は子ども達に懸かっているものであり、子どもは、酒田の宝であるということ強く打ち出すべき。
⇒〈事務局〉新計画の中に、女性活躍の観点を入れていきたい。国でも女性活躍推進法にもとづく施策に取り組んでおり、酒田市でも力を入れているところ。
また、新総合計画は、子育て支援を柱としたまち・ひと・しごと創生総合戦略を深化させた計画としており、しっかりと取り組んでいきたい。
- 〈委員〉第1章「『協働』のまちづくりに向けたプロフェッショナルな人材づくり」について、東北公益文科大学で現在やっている「地(知)の拠点」の取り組みは続けていくべき。地域づくりをコーディネート、ファシリテートする人材を育てることが、第4章、第5章の政策につながっていくものと思っている。市民が主体的に地域づくりや地域福祉を担っていくという視点を大切にすべき。
- 〈委員〉第4章「それぞれの力を最大限に引き出した地域運営」について、最大限に引き出すのは誰で、引き出されるのは誰なのか。言わんとすることはわかるが、「協働」という名の元に、住民の力を最大限引き出すというのは違うのではないか。最大限に引き出されてしまう地域は、だんだん疲弊してしまう。これ以上、何を引き出されるのか。できるだけ多くの人から、少しずつ力を引き出すという方向で考えた方が良いのではないか。

- 〈委員〉資料3「総合計画の骨子」P.22について、作業中のサンプルということだが敢えて取り上げさせていただく。施策や成果指標に「コミュニティセンターでの避難所立ち上げ訓練」という記載があるが、避難所立ち上げは市の役割。常にやられているのが普通である。「運営訓練」とすべき。
⇒〈事務局〉第1章において、現状「協働」という言葉を使っているが、それぞれの方ができることを出し合って、一緒にやっていきたいという想いを折り込んだもの。
⇒〈市長〉御意見は真摯に受け止めさせていただく。「引き出す」主体は行政である。行政が主導して、働きかけをしていくべきと考えている。コミュニティ振興会レベルのマクロな単位で考えると、地域の力を最大限に発揮できている地域は限定的という状況であり、少しでもいいので住民一人一人ができることをやっていけば、エリアとしての地域力は最大限になっていくのではないかと。住民一人一人がありったけの力を出せということではなく、少しずつ力を出して地域、引いては酒田市全体が良くなっていけば良い。今後、ご指摘の内容を踏まえながら計画を作り込んでいく。
- 〈委員〉総合計画をつくるにあたって、審議会委員へのインタビューやワークショップの開催等、職員の皆さんが情熱をもって取り組んでいることに敬意を表したい。都市の将来像については、どの項目も大切だと思うが、全市民に関連する「誰もがいきいきと暮らし「住み続けたい」思えるまち」を最初の柱とすべき。
- 〈委員〉都市の将来像のキャッチコピー、わかりやすく、元気があってよいと思う。
- 〈委員〉東北地方は全国でも人口減少が著しいが、昨今、首都圏から地方に農業をすゝめるために戻るといふ事例が生じつつある。酒田ではあまり聞いたことがないが、西日本の方では相当進んでいるらしい。また、医療費や出産費の無料化等の施策によって出生率上がっている自治体もあると聞く。教育により、何とか地域に残ってもらえるように仕向けなければならない。人口減少対策を柱に据えていく必要がある。
⇒〈企画振興部長〉まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、移住・定住施策を位置づけており、今後も取り組みを進めていく。農業を目的とした移住事例は未だ把握していないが、周辺地域では少しずつ事例が出てきているようだ。
出生率を上げていく取り組みも実施しているが、医療費の無償化という点については財政的な制約もあり中々踏み込むのは難しい。
- 〈委員〉団塊の世代が農業から撤退すると人材不足が深刻化する。農業をどう維持し、拡大していくか。外国人労働者や退職後の人材等の活用も検討すべき。外国人労働者について、特区制度の活用はできないものか。
⇒〈企画振興部長〉特区制度については今後可能性を検討できればと考えている。
- 〈委員〉未来会議を経て積み上げた総合計画の骨子は意味があるものになったと思う。酒田の特徴点をいかにアピールしていくかがポイント。昨今、酒田の地位的な優位性が見直されて来ている。日本海側に面しており、太平洋側を繋ぐ横の物流拠点であること、また、産業の後背地になりうる土地があること等、産業面でいえばさまざまな可能性を秘めている。人が暮らすためには収入が無ければならない。人

口流出を止めるため、産業の育成、誘致を柱に据えるべき。そこにアクセントをつけられればなお良いと思う。

- 〈委員〉現在、子育て関連施設を運営しているが、転勤族の利用が比較的多い。山形に転出した人が、酒田まつりやどんしゃんまつりに来るようなケースが多く、そういった方々は、酒田の魅力をどんどん発信してくれる。定住ではなく、一時的に酒田に住む方も「おもてなし」していくべき。酒田市のために何ができるかを考えていきたい。
- 〈委員〉人口の自然現象、社会減少の推移を後日でいいので示して欲しい。
- 〈委員〉可能な限り高校生が地元就職できるような施策を打つべき。秋田で就業した高校生の3年後の離職率は40%を超えているが、どこに移動しているのかが誰も把握していない状況。酒田市内の離職率をしっかりと把握し、その後のフォローアップをしていくべきではないか。給与、就業条件等、できるだけ若者が地元に住み良いような環境を整える必要がある。
- 〈委員〉移住関連事業については各自自治体間での競争となっている。東北地方は冬が寒く、比較的マイナス要因となっているが、それを乗り越えてでも移住してもらえるような施策を打つべき。酒田市単独では無理なので、山形県との連携により進めていかなければならない。
- 〈委員〉生涯スポーツの記載はあるが、地域活性化の切り口として、スポーツの視点をもっと入れていくべき。サッカー、バスケ等、プロの競技を市内で開けるようになれば良い。酒田はニュージーランドのホストタウンにも登録されている。
- 〈委員〉リサイクルポートがあるので、今後港湾地区で操業が予定されているバイオマス発電等とも連動しながら活性化につなげていくべき。
- 〈委員〉医療・介護において、最大の問題点が過疎化、高齢化。高齢化率は上がるが高齢者は増えない状況。本当に深刻になるのは、団塊の世代が後期高齢者となる2025年以降。現在からわずか8年後である。どんな状況になっているかは不透明だが、社会保障財源が長続きするはずがなく、今までと同じ政策の組み立てでは通用しなくなる。選択の幅が狭くなる時代がもうすぐやってくるということだ。すべての要素を計画の中に網羅するのも大切だが、今後は優先順位をつけた形での総合計画も必要である。
また、計画が実際のアクションにどう結びつくのか。会議が終わると何となく有意義な時間を過ごした気がするが、結局、何が決まって誰がいつまでにやるのかがわからなくなってしまう。行動計画も一緒に示していただくと取組む意気込みが違ってくるのではないかと。
- 〈酒田市長〉本日は非常に示唆に富む提言を頂いた。真摯に受け止め、反映に向けて作業を進めたい。
 - ・農業の外国人特区のご提案については、今後、農業関係者と意見交換をしないと安易には判断できない。酒田で農業に従事することの価値観は、教育によって形成されていくものと考えている。

- ・子ども達に対する教育の在り方についてもきちんと盛り込んでいく必要がある。
- ・女性が輝く地域社会づくりについては、今年度も事業を打ち出しており、10年後も必要な視点である。
- ・一時的に酒田に住んだ方が、転出後、酒田にやってくる等により、交流人口が増加していくことは、定住人口増に匹敵する効果があると考え
- ・ご指摘があったスポーツの視点については非常に重要。スポーツによる交流、賑わいづくりという点も計画に位置づけたい。
- ・10年先の環境の変化を見据え、バラ色だらけの計画ではなく、厳しい視点を盛り込んだ、辛口な総合計画という部分も必要。

○〈事務局〉次回は6月下旬頃に部会を開催。一次原案をお示しする。

(以上)